

日本語話者とロシア語話者のポライトネスの認識の相違に関する小考：依頼表現に対する適切性判断とその自由記述からの検討

東出, 朋
長崎国際大学人間社会学部国際観光学科：講師

松村, 瑞子
九州大学：名誉教授

<https://doi.org/10.15017/4845518>

出版情報：言語文化論究. 49, pp.39-46, 2022-10-26. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

日本語話者とロシア語話者の ポライトネスの認識の相違に関する小考

——依頼表現に対する適切性判断とその自由記述からの検討——

東出 朋¹・松村 瑞子²

1. はじめに

外国語での円滑なコミュニケーションのためには、語彙や文法などの言語表現を学習することに加え、目標言語のポライトネスの特徴を理解することも重要である。依頼行為は相手のフェイスを脅かす恐れのある行為の代表で、ポライトネス研究において数多く研究されてきた。言語教育においても、ポライトネスを扱う教材は必ず依頼行為を取り挙げている (e.g. 松村・因 2014、清水 2016)。依頼行為はコミュニケーションで問題や誤解が生じやすい行為の 1 つだと考えられるためであろう。

ロシア語の依頼表現の 1 つに、完了体及び不完了体未来による疑問文を用いる方法がある。この疑問文は、意味論的には、当該行為を実行する相手の意志または行為の達成の可能性に関する質問である (Ларина 2009: 225)。T (2 人称単数形) であれば親しい関係での依頼表現 (1)、V (2 人称複数形) であればより丁寧な依頼表現 (2) となる。

- (1) Ты в магазин? Купишь мне мороженое? (Ларина 2009: 225)
(Are you going to a store? Do you buy me some ice cream?)
- (2) Вы не покажете другой образец? (宇田・原 2007: 53)
(Don't you show some different examples?)

このようなロシア語の依頼表現を日本語に直訳することは困難である (3)。日本語の依頼表現で広く用いられるのは、可能表現や授受表現を含む表現である (4) (5)。日本語話者は (1) (2) また (3) のような表現に違和感を覚えることが予想される。

- (3) ?アイスクリーム、買う? (作例)
- (4) アイスクリーム、買える? (作例)
- (5) アイスクリーム、買って (もらえる / もらえない / くれる / くれない)? (作例)

本稿では、日本語話者に理解されにくいロシア語での言語行為の 1 つとして依頼表現を分析し、日本語話者とロシア語話者のポライトネスの認識の相違点を検討する。

2. 調査概要及び分析対象

2.1 調査概要

2022年3月から5月にかけて、日本語話者とロシア語話者に対してオンラインにて質問紙調査（アンケート）を実施した。総回答者は日本語話者81名、ロシア語話者46名である。アンケートはフェイスシートと言語行動の設問からなり、後者は日本語やロシア語の言語行動の13の場面を提示し、該当表現について①適切か不適切かの2択の選択、②そのように考える理由の自由記述を設定した。このような設問では、表現の適切さやその程度ではなく、適切／不適切の判断理由から当該言語話者のポライトネスに関する認識を引き出すことができる。

2.2 分析対象

本稿で分析するのは、提示した13の言語行動の場面のうち、親しい人間関係における依頼場面である。この場面は現代ロシア映画の一部で、親しい関係にある若い男2人による会話である。一方がもう一方に部屋をそのまま譲ってくれるように頼んでいる（添付資料1）。なお、全回答者のうち、壮年層（20代と30代）に当たる日本語話者33名とロシア語話者25名を分析対象とする。

3. 調査結果

ロシア語による親しい関係での依頼場面の表現について、まず、適切性判断の結果は表1の通りである。ロシア語話者では適切と判断する人が不適切と判断する人よりも多いのに対し、日本語話者では不適切と判断する人が適切と判断するより多い。

表1. ロシア語話者と日本語話者の適切性判断の結果

	適切	不適切	合計
ロシア語話者	16 (64.00%)	9 (36.00%)	25 (100.00%)
日本語話者	10 (30.30%)	23 (69.70%)	33 (100.00%)

次に、自由記述の結果は表2及び表3の通りである（添付資料2）。興味深いことに、ロシア語話者も日本語話者も、適切／不適切と判断する理由が類似している。適切と判断する理由には話者らが親しい友人であることが挙げられ、不適切と判断する理由には友人であっても相手の意志を尊重すべきであることが挙げられている。当然と言えばそれまでだが、ロシア語話者にも日本語話者にも「親しい関係だからこのような表現でも大丈夫」と考える人もいれば「親しい関係でも相手の意志を尊重する表現が必要」と考える人もいるのである。

その上で、表1で顕著な違いが示されている、ロシア語話者が適切と判断する理由と日本語話者が不適切と判断する理由に着目してみよう。ロシア語話者が適切とする理由には「親友」「仲良し」など、その「人間関係」に着目する記述が散見されるのに対し、日本語話者が不適切とする理由には「上から目線」「凶々しい」「横柄」など、言語表現の背後に潜む「態度（マナー）」に関する記述が散見される。ここに、日本語話者とロシア語話者のポライトネスの認識の差が見て取れる。

4. 考察

ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーの1つに「ストラテジー11 楽観的であれ (Be optimistic)」がある (ブラウン & レヴィンソン 1987 : 172-174)。楽観的な表現は相手のフェイスを脅かす大きさを最小化する。「そんなことはわざわざお願いすること (中略) ではない、S と H の協力関係においてはそんな小さなことは当然だ、と暗に伝えている」(同上 : 174)。(6) では、S は H との人間関係が良好であることを前提とした上で、草刈り機を貸してくれることが当然であると S が期待しそれを表明することが、H のフェイスに対する補償行為となる。

(6) You'll lend me your lawnmower for the weekend, {I hope./ won't you? / I imagine.} (同上 : 173)

本調査で提示したロシア語の依頼表現 (7) はまさにこのストラテジーに該当する。ロシア語ではこのような依頼表現は少なくない。

(7) Ты мансарду мне оставишь свою?

(8) おまえの屋根裏部屋、おれに残すんだらうな？

「依頼ではなく、まるで当然のこのように聞こえる (ロシア語話者)」や「相手に対して「当然の行為をしてくれるんだよな」という意図が感じ取れる (日本語話者)」という自由記述は、このストラテジーに対する違和感を指摘している。表1も合わせて考えると、ロシア語話者にはこのストラテジーは受け入れられやすいが、日本語話者には受け入れにくいと言える。

ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーはイン・ポライトネス (impoliteness) と表裏一体である。ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーは、「話し手がそうであればいいと願い、おそらく聞き手も同意してくれるだろうと期待して、そのように“見なす”ありようが肯定的に表現される」ストラテジーである (滝浦 2008 : 37)。ただし、このように積極的に相手へ接近することは相手の領域に踏み込むことであり、それは当然リスクを伴う。「すでに親しい関係であればリスクも相対的に小さくなるが、もしそうでなく、かつ聞き手が相応の距離を保っておきたいと感じていた場合には、この踏み込みは歓迎されず、逆に“なれなれしい”とか“ずうずうしい”といった印象を抱かれる危険がある」(同上 : 37)。日本語話者の自由記述には「図々しい」という意見が見られた。また、「上から目線」「横柄」という記述からも、この場面が日本語話者にはイン・ポライトネスとして受け止められたことが分かる。Culpeper (2011) はイギリスの学部生が証言したインポライトな出来事を分析し、その記述として「上から目線」が最も高頻度のラベルであったと述べている。

提示した場面では、話し手と聞き手の社会的距離 (D) は近く力関係 (P) も同等である。一般的には「すでに親しい関係であればリスクも相対的に小さくなる」と考えられるが、この場面は多くの日本語話者に不適切と捉えられた。日本語話者にとって重要なポライトネスの認識は、有名なことわざの通り、「親しき中にも礼儀あり」なのだろう。

5. まとめ

本稿では、親しい関係における依頼表現に対するポライトネスの認識調査から、日本語話者とロ

シア語話者のポライトネスの認識の相違点を検討した。ロシア語話者にはポジティブ・ポライトネスとして認識される表現でも、日本語話者にはイン・ポライトネスとして認識されることがある。今後は日本語の依頼表現から日本語話者とロシア語話者のポライトネス認識の相違点を分析する必要がある。

注

- 1 長崎国際大学人間社会学部国際観光学科 講師
- 2 九州大学名誉教授

参 考 文 献

- 宇田文雄・原ダリア (2007) 『ロシア語通訳教本』 東洋書店
- 清水崇文 (2016) 『心を動かす英会話のスキル——コミュニケーションの鍵 ポライトネス』 研究社
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社
- ブラウン・ペネロピ&レヴィンソン・スティーヴン・C (1987)、田中典子監訳 (2001) 『ポライトネス 言語使用における、ある普遍現象』 研究社
- 松村瑞子・因京子 (2014) 『実践日本語ポライトネス指導教材 日本語・英語・中国語・韓国語教材』 九州大学大学院言語文化研究院
- Culpeper, Jonathan (2011) *Impoliteness: Using Language to Cause Offence*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ларина. Т.В (2009) *Категория вежливости и стиль коммуникации: сопоставление английских и русских лингвокультурных традиций*. М.; Рукописные памятники Древней Руси.

付記

本研究は、科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）（一般）「日露（イン）ポライトネスを切り口とした異文化理解教育のための教材および指導法開発」（研究代表者：松村瑞子、課題番号20K00700）の研究成果の一部である。

添付資料1. アンケート票（依頼部分のみ）

（日本語話者向けアンケート）

13 外国へ引越しを予定している若い男（清掃員アルバイト、A）とその男の親友（B）が話している。親友は空いた部屋に住みたいと思っている。

B: おい、おまえの屋根裏部屋、おれに残すんだらうな？

A: おまえ、清掃員として働くのか？

B: いや。

問1 下線部の発話について尋ねます。 1 適切 2 不適切

問2 問1の理由を書いてください。

（ロシア語話者向けアンケート）

13 Главный герой (A)- молодой человек, который подрабатывает уборщиком и планирует переехать в другую страну, разговаривает со своим другом (B). Этот друг хотел бы жить в освободившейся комнате.

A: Слушай, а ты мансарду мне оставишь свою?

B: А ты дворником работать будешь?

A: Нет.

1. Являются ли подчеркнутые выражения, на Ваш взгляд, уместными с точки зрения вежливости?

1) Да 2) Нет

2. Объясните, почему Вы так считаете.

添付資料2. 適切 / 不適切と判断する理由の自由記述

表2. ロシア話話者の記述

適切	不適切
Дружеское общение, почему нет? (仲の良いやりとり)	Нельзя просто взять и брать чужое, хоть они и друзья, в некоторой степени он его использует. (友人であっても人のものをただ取ってはいけない。ある意味で彼は友人を利用している)
Разговор между приятелями кажется совершенно естественным. (友人間の会話では極めて自然)	Звучит как не просьба, а само собой разумеющееся. (依頼ではなく、まるで当然のことに聞こえる)
Говорящие друзья - вполне уместное дружеское обращение. (話者は友人、十分に適切な仲の良いやりとり)	Мне кажется не уместными, так как несмотря на то, что уезжающий человек - приятель, стоило его вежливо попросить об услуге. (出ていく人は友人であり、条件について丁寧に尋ねる必要があるので、不適切と考える)
обычный приятельский разговор (よくある友人との会話)	Неуважительное общение (非尊重的なやりとり)
Обычное приятельский диалог. (よくある友人との会話)	
Очень странный диалог... но если у людей приятельские отношения, то, наверное, такой стиль разговора уместен. (非常に変な会話だが、親しい関係であればおそらくこのような会話スタイルも適切)	
В принципе, вопрос уместный и составлен однозначно. (基本的に質問は適切だし一義的である)	
Да, ведь это близкие друзья (だってこれは親友だから)	
Ребята знакомы. У них дружеские отношения. Все уместно. (彼らは知り合い。仲の良い関係。なんでも大丈夫)	
Уместно только если они близкие приятели, иначе слишком невежливо спрашивать настолько прямо, нужно заходить издалека. (親しい関係の場合のみ適切。でなければこれだけ直接質問するのは非常に失礼で、遠くから接すべき)	
Они друзья, поэтому она могут так общаться между собой. (彼らは友だから自分達の間ではこのように話してもよい)	
Нормальное общение друзей (友人との普通のやりとり)	

表3. 日本語話者の記述

適切	不適切
親友どうしの会話ならくだけた言い方のほうが適切であり、乱暴な言い方ではあるがそれに対するAの反応をみても適切さには問題がないと考えられたため。	質問でありながら、相手の回答を限定しているものだから。
親友なら、これぐらい乱暴でも、その意図をくみ取ってくれる。また本当に残してほしいわけではない。	親友といっても、このような命令口調で話すべきではない。親しき仲にも礼儀あり。
二人は親友関係であるので、当たり前のように自分のことを分かってくれているような前提に立った話しの振り方も、逆にその裏にある親しさが垣間見えるため。	空いた部屋をBに残すかどうかはAの意思で決められることで、Bはお願いをする立場にも関わらず、Bは部屋をもらえる前提で問いかけているため。また、言語表現自体も丁寧さに欠けていると思ったため。
丁寧な言葉遣いではないが、二人の関係性からすれば妥当。	空いた部屋に住みたいわりには上から目線で雑に聞こえる。
親友であるため	相手に対して「当然の行為をしてくれるんだよな」という意図が感じ取れるため、丁寧とは言い難い。
親しい間柄ではあると思えるから。	疑問形だが、残してくれと言っている
	残すのではなく与えるという言葉が適切に感じるため。
	残してもらえる？という表現がよい
	図々しい。
	友達だとしても、上から物を言っていて、丁寧とは言えない表現に感じた。
	依頼する側の態度としては大柄に感じる。
	住みたいと思っている人の言動ではない。上から目線。
	人に何かしてもらおうことを当たり前のように思っているように感じるから
	もう少し言い方がえたほうがいいのでは。直接すぎると思う。
	なぜ敬語ではないのかがわからない。 上から物を言っているように聞こえる。
	おまえ、俺、の言葉遣い、そして相手が自分に何かしてくれるのが前提なのは丁寧さとはほど遠いと思います。
	BのAに対する上下関係を感じ、丁寧な頼み方ではないと思うから。(圧力)強要を匂わせる雰囲気もある。
	「おれに残すんだろうな？」と結論ありきで聞いているところ、相手への強圧的な態度を感じる。相手の意志への敬意があるなら、「おれに残してほしいんだけど」という方が丁寧だと思う。

Анализ различий в восприятии вежливости между
носителями японского и русского языков.
Исследование основано на результатах анкетирования на
тему выражения просьбы.

Томо ХИГАСИДЭ, Ёсико МАЦУМУРА

Для успешной коммуникации на иностранном языке, помимо знания лексики и грамматики, учащимся необходимо понимать особенности вежливого общения на изучаемом языке. В данной работе на основе анкетирования носителей японского и русского языков на тему выражения просьбы между людьми, находящимися в дружеских, близких отношениях, исследуется разница в понимании вежливости между японцами и русскими.

В результате исследования было выяснено, что выражения, воспринимаемые русскоговорящими как вежливые (позитивная вежливость), носители японского языка зачастую расценивают как невежливые.